

地域発 防災ラジオドラマ 藤沢

六会天神町 地震災害編 シナリオ 第1話

地震発生 二〇一〇年一月二〇日 午前十時00分

震源地 相模湾（南関東地震）

マグニチュード 七・九

天神町の震度 六

天候 晴 気温九度

課題 平時の連絡網を生かした地域の安否確認

状況設定

地震の揺れが収まってから、自宅前の道路や庭に住民が出てきて不安げに寄り集まる。その中で自主防災会の役員が、怪我をした人がいないか、家の中に取り残された人がいないか声をかけ、集まった人がそれぞれ手分けをして、近隣住民の安否確認や被害状況を調べ始めるが、アパートやマンションの住居者との付き合いがあまりなく、平日の午前中に起きた災害なので、住民のほとんどが高齢者や主婦のためなかなか情報収集がはかどらない。天神町一丁目と天神公園の間の道路が引地川まで、液状化現象で陥没し横断できない状態になり、天神小学校の校庭には児童が集まって点呼を受け全員無事が確認された。体育館の安全が確認できしだい移動する予定だ。一方、二丁目・三丁目の住民は、天神公園にやってくる。災害対策本部は、天神町会館の石段が崩れ会館も危険なため、天神社の社務所に設置された。自治会長や自主防災会役員を中心に住民の安否確認や地域の被害状況の調査を始める。

前説（ナレーション 毎回放送）

独立行政法人防災科学研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップを下敷きに

して、地域の「より細かい事情」を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って具体的に整理して記述したものを指しています。災害シナリオは、地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態の展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

藤沢市では、これまで藤沢市立鵜沼中学校を避難所とする地区防災連絡協議会の地震シナリオ、鵜沼海岸五丁目自治会自主防災会の水害シナリオを作成いたしました。今回は六会天神町での地震シナリオに基づくドラマを放送いたします。この地域は藤沢市のやや北部に位置する閑静な住宅地ですが、昼間は多くの方々が地区外に通勤通学されているため、高齢者の昼間独居が防災上の課題の一つになっています。

地域防災ラジオドラマ・イン・藤沢。六会天神町地震災害編。このドラマは地域住民の方々がワークショップで議論した内容に基づくフィクションです。

【ストーリー】

登場人物

丸山（主婦） 自主防災会 消火班

山田（主婦） 自主防災会 学童班

近隣住民

男 A 高齢者の男性

男 B 専業農家

男 C 年金暮らしの男性

女 A 老母と暮らしている中年女性

女 B 主婦

石川会長 自治会と自主防災会の会長で避難所の総括責任者

岡田副会長 自主防災会の副会長

近藤校長

中村（男性） 民生委員の妻に頼まれて名簿を届けに来る

大山（女性） 自主防災会救出救護班

河内（女性） 自主防災会救出救護班

中原（女性） 自主防災会給食給水班

和泉（女性） 自主防災会給食給水班

防災無線の声

避難者大勢の声

【ナレーション】

六会天神町は、藤沢市の中北部に位置し、日本大学の広大な敷地から引地川に向かって下ってゆく傾斜地に、昭和四十年代の半ばごろから造成が進められた閑静な住宅地です。地域の南は市には災害時の避難所となる市立天神小学校があります。天神町の中心には由緒正しく歴史のある六会天神社があり、地域の鎮守としての役割を果たしています。高い建物は少なく、多くは一戸建てか中低層のマンションやアパートからなっています。物語は、ある冬ばれの朝、庭で洗濯物を干している丸山さんに、隣の山田さんが二階のベランダから話しかけているところから始まります。

山田 「丸山さん、もうすぐ十時よ、洗濯物干し終わったらお茶しない」
丸山 「いいわねエ、田舎から送ってきた干し柿があるから持ってくるわ」
山田 「ラッキー！おいしいのよね、丸山さんの干し柿」
丸山 「去年の暮れまで寒さが続いたから、今年のは甘いわよ」
山田 「わぁーッ！期待しちゃう！早く来てよね」
丸山 「すぐいく、お湯沸かしといて」
山田 「まかせといて、新型の電気ポットだからお待たせしないよ」
丸山 「(笑って)了解」

山田、二階から階段をトントントンと降りて、ハミングしながらお茶の用意をする。(カチャカチャと触れ合う茶碗の音)。ドアを開ける音

丸山 「山田さん、あがるわよ！」
山田 「どうぞ！」
丸山 「見てみて！これ」
山田 「真っ白に粉が吹いているのがたまないわよね、ウーン！おいしい！」
丸山 「亭主は会社で子供は学校、私たちはお茶会で命の洗濯」
山田 「干し柿たべて、のんびりできて、もう最高に幸せ！前に住んでたところは商店街だったのよ、買い物には便利だったけど人が多くて落ち着けないの。でもここは本当に静かよね」
丸山 「人通りが少なくて静かな訳知ってる？ 天神町のほとんどの人が、昼間は働きに行っているか学校に行っているかしているの」

山田 「ああッ、去年の暮れにやった防災シナリオワークショップとかなかんとかでいってたわ、昼間いる人は三分の一ぐらいだって」

丸山 「そうよ、昼間は私たちみたいな専業主婦と子供とお年寄りだけになっちゃうのよ、何かあったら男手が無いから動けるのは私たちだけよ」

山田 「だから自主防災会の役員にあたっちゃうんだ、私が学童班であなただけは消火班でしょう」

丸山 「そうかもね、働きに行っちゃあ、いざっていうときに合わないものね」

山田 「でも、三月いっぱい役員改選でしょ。残念、出番がなかったか」

丸山 「そんなこと言っちゃって、まだ二ヶ月以上あるのよ、ちよっと前に伊豆のほうで大きな地震があったばかりじゃない、油断禁物よ」

テーブルの茶碗がカタカタ鳴り出すと突然ゴーツという地鳴りとともに建具がガタガタ音を立て始める。

山田 「キヤーツ！なにになに！」

丸山 「地震よ！地震！テーブルの下に早く入って！」

二人の悲鳴と食器棚からコップや皿が飛び出して割れる音、たんすや本棚が倒れる音が響く。大きな揺れが収まり静かになる。

丸山 「収まったわ、今のうちに外に出ましょう！」

山田 「まだ揺れてるみたい」

丸山 「大丈夫よ、割れたガラスに注意して、さあ早く出ましょう！」

山田 「玄関の扉は開く？」

丸山 「開くわ、サンダルじゃだめ！靴を履いて！」

山田 「何にも持ち出せなかった！」

丸山 「そんなの後でいいのよ！命が大事なんだから！」

二人が表に出ると近所の住民も何人か道路に避難している、それぞれなすべもなく呆然としている。

「すごい地震でしたね！」「怖かったですね」「怪我はありませんか？」等々ざわざわした避難者どうしの話し声。

防災無線の「ピンポンパンポン」というチャイムの音と防災無線の声

「こちらは、防災藤沢です。ただいま地震がありました。藤沢市の震度は六強です。落ち着いて火の始末をしてください。海岸付近にいる人は、津波の恐れがありますので安全な所に避難してください。今後のテレビ・ラジオの情報に十分注意してください。」（二回繰り返し返す）

丸山 「アッ！伊藤のおばあちゃん一人暮らしなんだ！見てこなくっちゃ！」

山田 「一人じゃ危ないわ、皆に協力してもらいましょう」

丸山 「そうね。皆さん！ちよつと集まってください！」

避難者、がやがやいいながら集まってくる。

山田 「皆さん、余震が来る前に、ご近所の方々の安否を確認したいんです。

手分けをして声をかけて回ってください。それと、一人暮らしのおばあさんがいるんです、誰か一緒に来てください」

住民男A 「伊藤のおばあちゃんか？茶飲み友達だからなわしがみてこよう」

丸山 「おねがいします。それから、ガス漏れがしていないか、火が出ていないか、道路の被害状況も確認してください」

住民男A 「わかった。出会った人にも協力してもらうよう話すよ」

住民男C 「安否確認や被害状況の情報は何処に知らせるんだ」

山田 「天神町会館が対策本部になるはずですが、そこに行ってください」

住民男B 「マンションやアパートはどうする、一部屋ずつ確認するのか？」

住民男C 「鍵がかかっていたら壊してはいるのか？」

住民女B 「普段お付き合いないから、部屋の中までは入れないわ」

山田 「声をかけるだけでいいんじゃない」

住民男B 「それじゃ安否確認にならないだろう」

住民女B 「中で気を失って倒れているかもしれないし」

丸山 「ともかく今出来ることしましょうよ」

住民女A 「(イライラしながら) 私のうちは大丈夫そうだから中に居ます、外は寒いし母は年寄りなので」

丸山 「安全が確認できるまで、天神町会館か学校に避難したほうがいいですよ」

住民女A 「母は足が悪いです、そんなとこまで連れて行けません」

丸山 「それじゃ余震が来たときすぐに逃げ出せるような所に居たほうがいいですよ」

住民女A 「わかりました、そうします」

山田 「丸山さん、私、学童班だから小学校に行かなくちゃ、子供たちは無事かしら、心配だわ」

消防車等緊急車両のサイレンの音、遠くに聞こえる
伊藤さんのところへ行っていた住民男Aが戻ってくる

住民男A 「おう、伊藤さんとは本人も家も大丈夫だ。しかしな、天神公園前のバス通りが陥没していてな、二丁目のほうには渡れないぞ」

住民男B 「たいへんだ！早いところ、一丁目の被害状況を把握しよう」

住民男C 「さあ皆！手分けをして始めよう！」

住民男A 「一丁目の災害本部は小学校にしよう、あそこには防災倉庫があるから必要な機材がそろっているはずだ」

丸山 「そうしましょう。山田さんは学校に行って道路が陥没していることを伝えて、それから校長先生と相談して、特養老人ホームのほうから日大前を通って二丁目・三丁目に帰れる道がないか調べてくれる」

山田 「いいわ。で、丸山さんは？」

丸山 「私は防災倉庫にあるハンドマイクかトランシーバーを使って、対策本部の石川会長と連絡を取るようになるわ」

山田 「了解。さっき自主防災会の班員として、出番が無いなんて言ってたけど取り消すわ」

丸山 「了解。これからが大変よ、がんばろうね！」

【ナレーション】

天神町会館の石段が崩れ、会館自体も安全が確認できないことから、念には念を入れて、天神公園の防災倉庫から機材を運び出し、防災本部を天神社の社務所に設置することになりました。各組長から報告されてくる町内住民の安否確認と被害状況を石川会長達がまとめていますが、一丁目との連絡が取れないのでどうしようかと話し合っています。天神公園には次第に状況を知りたいと避難してくる人が増えてきています。（遠くで消防車等のサイレンの音）

石川会長「岡田さん、まだ一丁目の組長と連絡が取れないのか？学校はどう

なっているんだ？校庭の防災倉庫は誰も開けないのかな」

岡田副会長「トランシーバーに応答が無いですね、チャネルが合っていないのか、使い方が分からないのか・・・。携帯電話も使えないし・・・。人の姿は見えますからハンドマイクで呼びかけてみましょうか？」

石川会長「何でもやってみてくれ、それから、ほかの役員に言って、学校まで行ける道が無いか調べてくれ。災害の報告はどうなっている」

岡田副会長「町内で一番被害が大きいのは、一丁目のバス通り沿いと看護学校の裏側が引地川まで陥没している所ですね。今のところ火災は発生していませんし、死亡や怪我人も報告されていません。二丁目・三丁目には古い家が少ないから家屋の被害はあまり無いようです」

石川会長「やっぱり藤沢市の地震影響図にあったように、液状化現象が起こったんだな。陥没したところは昔は谷戸で引地川の湿地帯だったところだからな。昭和四十六年からの宅地造成で埋め立てて今の住宅地になったんだ。三十年以上たってるんだから、地盤はしっかりしていると思っていただがな。一丁目のバス通り沿いはかなり酷い状態だ、閉じ込められている人がいなければいいんだが」

中村「会長、民生委員の中村です。女房に言われて名簿を持ってきました」

石川会長「ああ、中村さん、ご苦勞様。お宅は大丈夫でしたか？」

中村「家は大丈夫ですが中は滅茶苦茶ですわ。でも怪我人はいません」

石川会長「それはよかった」

中村「ラジオで言ってましたが、震源地は相模湾で関東大震災と同じくらいの地震だそうですよ」

石川会長「私も聞きました。災害本部のある市民センターならもう少し詳しい情報が入ると思います。私も、ここが落ち着いたら行かなければならない」中村「町内と防災の両方の会長をされているから、大変ですね。そうだ、女

房は、ほかの民生委員や福祉事務所からの連絡があるので、老人会館のほうで待機しているっていました」

石川会長「わかりました、名簿に乗っている人の安否を確認して、何かあったら会館へ知らせます」

岡副会長「会長！無線が通じました！小学校の近藤校長からです

石川会長「よし、貸してくれ！えー、こちら会長の石川です、そちらの状況を知らせてください。どうぞ！

近藤校長「こちら校長の近藤です、生徒たちは全員無事です、怪我人はありません、今先生方が体育館の状態を調べています、安全が確認されしだい移動します。どうぞ

無線機の周りに集まっている人たちから「わーっ」と歓声が上がる。

石川会長「子供たちは全員無事なんです！了解しました。なお、地域住民の情報は何かありませんか？どうぞ」

近藤校長「はい、自主防災会の丸山さんと山田さんが組長さんたちと一丁目の住民の安否確認をしています。こちらに一時避難してくる住民の方は増えてきています。切り傷や打撲を負った人が数人きましたが、保健室で手当てをしました。重傷者は今のところ居ません。どうぞ」

石川会長「わかりました、学校のほうは避難所として開設できそうですか？どうぞ」

近藤校長「はい、藤沢市役所から地域担当の波島さんがこちらに向かっているそうです。到着しだい本格的に対応しようと思います。その前に保護者の方にお子さんを迎えに来てもらいたいのですが、通学路が通れないとのことなので、日大のほうを通るルートを調べに行っています。どうぞ」

石川会長「こちらでも調べに行っています。通路が確保出来次第迎えにいけるよう手配します。どうぞ。岡田さん、代わってくれ」

岡田副会長「近藤校長！副会長の岡田です、チャネルはかえないで誰か通信係りを決めて、常時連絡が出来るようにしておいてください。どうぞ」

近藤校長「はい、了解しました。どうぞ」

石川会長「岡田さん、公園に集まっている人たちに、状況を説明してくる。そ

これから私は六会地区全体の責任者になっているので、災害拠点の市民センターに行かなくてはならないから、あとのことは役員さんたちと相談してやってください」。

大山 「会長、何か手伝うことがあればって、集まっている人たちがいます。防災会の各班に参加してもらっていいですか」

河内 「私のほうには、家に戻っていいかって言ってきているわ」

中原 「食べ物をとってくるって、家に帰っちゃてる人がいるわよ」

和泉 「水道が止まっているから、飲み水の心配している人もいるし」

石川会長 「今行つて説明するよ、皆はここにきている各班長や役員を集めてくれ。岡田さん、この下の佐川工務店まで行って重機が使えるかどうか確認してきてくれないか、使えるようなら天神公園から田島公園に行けるよう、仮設道路を作るよう頼んでくれないか」

岡田副会長 「わかりました、トランシーバーは一台置いてゆきます、誰か操作できる人いますか」

大山 「私できます」

岡田副会長 「じゃあ、お願いします。会長、行ってきます、結果は無線で知らせます」

石川会長 「何をするにも安全を確認して事故の無いようお願いしますよ」

岡田副会長 「はい、わかりました」

石川会長 「さあ、行こうか」

役員一同 「はい」

避難者してきた住民のざわざわした声 子供の泣き声も聞こえる、消防車・救急車・パトカーなど緊急車両のサイレンが入り混じって鳴り響いている

石川会長 「(ざわざわした声にまけないようにハンドマイクで話す) みなさん！

私は自治会長の石川です。みなさん！ちょっと聞いてください！今日の地震は相模湾を震源地にした関東大震災規模の大型地震だそうです、藤沢市や近隣の詳しい被害状況はまだ分かりませんが、天神町の被害は、ここからも一部が見えるように道路が崩れているところがあります。天神小の児童は全員無事だそうです」

大山 「会長、今無線で日大前の道路を通れば学校に行けるそうです」

石川会長 「わかった。みなさん！今入りました情報では、日大前の道路を通って迂回すれば学校に行けるそうです。父兄の方はお子さんを迎えに行つて

あげてください。また、各組長からの報告では、倒壊した建物は少ないということですが、家に入るのは、自分だけの判断ではなく、近所の人など複数の目で、外見や内部を調べて安全を確認してから入ってください。大きな余震が来ることも予想されますから、少しでも危ないと思ったら、小学校に避難してください。現在は電気・ガス・水道は止まっています。復旧するまで、電気は二日か三日程度、ガスは安全が確認されるまで相当日数がかかります。水道は一週間程度断水するでしょう。でも安心してください、皆さんの飲み水は、この天神公園の地下の耐震貯水槽に確保してあります。しかし限りある水ですから、節水して大切に使用してください。最後におねがいします。この災害から立ち直るまでには、多くの問題と長い時間がかかるでしょう、町内会や防災会の役員だけでは対処出来ません。それには皆さんのご理解とご協力が必要です、どうかそれぞれの班に参加していただいて、一日でも早い天神町の復興に、皆さんで力を合わせてがんばりましょう」

ストーリー1終わり

住民からの大きな拍手と「参加するぞ」「がんばるぞ」等々の声が沸きあがる遠くで報道機関等のヘリコプターが数機飛び交う音、消防車・救急車・パトカーなど緊急車両のサイレンが入り混じって次第に大きくなる

このドラマは住民はじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーション（模擬演習）として、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。（以下参照）

● 六会天神町には、平時の連絡網として存在する自治会の班組織があります。またこれとは別に住民有志による自主防災組織が結成され、活動を行っています。また六会地区では各地区の防災組織が連帯して活動している六会防災リーダー会が結成されています。

●
ることが地域の大きな特徴となっています。六会防災リーダー会は各町内の自主防災組織からメンバーが選抜されて六会地区全体の防災訓練や防災講習などの取り組みを行っており、実際の災害時には地域連携にも何らかのかかわりが出てくると思われるですが、今回のドラマは天神町という単一町内会での取り組みに絞ったものとしたため、六会防災リーダー連絡会の活動については描かれておりません。

第2話では高齢者を一時的に収容する施設として関係者が老人会館に詰めるというエピソードが語られますが、老人会館は実在の施設ではありません。また天神小学校に隣接するグリーンライフ湘南という特別養護老人ホームが登場します。こちらは実際に存在する施設で、ドラマの中で語られている通り六会地区の防災訓練にも参加されます。人的交流が図られています。地域的には六会地区ではなく南側の善行地区に所属します。災害時に地域の福祉施設と連携を図るために何をしておくべきかは、今後重要な課題として地域で検討されることになっています。